

ネギアザミウマ新系統の発生状況

内 容

ネギアザミウマは、ネギをはじめとする多くの農作物の害虫として知られるが、近年、海外から侵入した系統（新系統）が日本各地で見つかり、新たな被害が懸念されている。そこで、県下の野菜生産地において2010及び2011年に新系統の発生状況を調べた（図）。その結果、新系統は、阪神地域及び淡路地域で認められたが、その発生程度には違いがあり、淡路地域では2010年のみ1割未満で見られたのに対し、阪神地域では2年とも7割以上の高い割合であった。

今後の方針

新系統による被害程度についてはまだ明らかではないが、他県では薬剤感受性低下の報告があるところもあるため、本県における発生動向や薬剤感受性

について調べる予定である。

新系統：雄と雌が交尾して繁殖する系統。在来系統は雌だけで繁殖するため雄が見られない。

柳澤 由加里（環境・病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 1222）



【ネギアザミウマ雌成虫】



【ネギにおける被害】

図 ネギアザミウマ新系統の調査地点
新系統発生地点については で示す。

チェッカーベリーの炭疽病

チェッカーベリーはツツジ科の多年生植物で和名はヒメコウジである。赤い実を付け、観賞用植物として人気があるため、県内においても北部地域の花壇苗生産農家を中心に栽培されている。

2009年頃より複数の生産ほ場において、葉の基部から枯れこみ、落葉、枯死する症状が発生した。発病葉や枝から病原菌を分離し、菌の形態、遺伝子の配列などを調査したところ、炭疽病菌（*Colletotrichum gloeosporioides*）が分離された。

本菌を再度、健全なチェッカーベリーに接種したところ、同じ病徴が再現されたため炭疽病による病害であることが明らかになった。

チェッカーベリーでの同病害は国内ではこれまで報告がなかったため、日本植物病理学会へヒメコウ

ジ炭疽病として病名を提案している。

分離した菌株をイチゴに接種をしても病原性があるため注意が必要である。防除対策としては、り病株の早期除去と新たな感染を防ぐために底面吸水等の灌水方法の改善が必要である。

松浦 克成（環境・病害虫部）

（問い合わせ先 電話：0790 - 47 - 2448）



写真 炭疽病により枯れ込んだチェッカーベリー